

別府ツーリズムバレー構想推進協議会 第3回総会 要旨

【開催日時】

令和元年11月26日（火） 13:30～15:00

【開催場所】

別府市役所5階 大会議室

【出席者】 敬称略

○委員（17名）

阿部 博光、池田 佳乃子、伊藤 靖生、岡田 祥伸、甲斐 一義、神野 康弘
樹下 有斗、倉原 浩志、関谷 忠、千壽 智明、西田 陽一、橋本 栄子、堀井 壮太、
牧 昌生、宮脇 恵理、柳川 雄飛、山本 修司

○事務局等 別府市経済産業部長、産業政策課長 外3名

【概要】

○第3回総会

(1) 開会あいさつ（経済産業部長）

(2) 会長あいさつ（関谷会長）

(3) 前回までの振り返り（事務局）

- ・第1回、第2回、第2.5回と総会を開催し、テーマ（起業・創業、人財育成、ヒト・企業とのつながり）を設定し、委員相互に本市の強みや弱みを共有しながらツーリズムバレー構想の取組みについて意見交換を実施。
- ・今回は、これまでに出された意見をもとに、事務局側でツーリズムバレー構想の骨子を作成、これに対して意見を伺いたい。

(4) 別府ツーリズムバレー構想について意見交換

《起業・創業》

- ・中小企業施策は4本柱がある。創業支援、経営革新、事業承継、事業再生がある。起業創業だけではなく、今ある企業の持続的発展という意味を込めて経営革新、事業承継を加えて。
- ・B-biz LINK が主体的に組織の中心に位置付けて、企画立案部門として、商工会議所や既存の支援機関とネットワークを上手く使っていくことが必要。
- ・創業セミナーや経営革新セミナー、事業承継セミナーなど、様々な機関と連携して実施してはどうか。
- ・商工会議所が実施している経営支援はたくさんある。既存事業者の持続的発展や学生に残ってもらうためには、商工会議所の経営支援を使って既存事業者を持続的に発展して雇用を作る同時に学生の創業を支援していく。
- ・学生にとっていきなり創業は難しい。既存の事業者の中で事業を学びながら、ある程度経験を積んで創業するという形がよい。
- ・サポート体制について、記載の団体に中小企業団体中央会などその他の団体も加えてほしい。

- ・資金供給の仕組みは、行政の予算には限りがあるため、できるだけ別府の応援団を通じてあらゆる方法を上手く使いこなしてほしい。
- ・産業界と商工団体、行政とのコミュニケーションの場が不足しているのではないかと。

《人財育成》

- ・観光産業とアカデミズムの連携を取りながら、観光産業と学びの場を作る。また、それらが実践の場と融合した、インターンシップなどはここに該当すると思う。
- ・実際に来年何をやるか、2~3年後に何をやるか、5年後にこうなっていきたいとのことまで書いて市長へ提言できればと思う。
- ・インターンシップは、まさに人財育成の部分。言葉として取り組みにはインターンシップとして入れる。
- ・キャンパスを持たない大学校だとバーチャルな印象を受ける。別府市のキャンパスという形で、大学生だけではなく、創業支援の方、未来の創業予備軍、そして生活している方もみんなで学ぶ“別府市全体がキャンパス”という方がよい。
- ・大学の流れとして学生自身が外に出て何か課題を見つけてその課題をどう解決できるか、その解決策を見出すような、教育の流れがある。まさにインターンシップ+課題解決型の教育としてよい。
- ・人財育成のテーマに2つあるが、もう一つの視点として「別府の応援団を全国に作りましょう」ということで、別府で暮らし、そこで様々なことを学び成長した学生が世界に散らばる中で、結果として別府の知名度を全体として押し上げることができるといえるような視点も必要。
- ・構想は理解できるが、実際に現場に落とし込む場合に、具体的にどうすればよいか。意欲ある学生が実践に落とし込むときに受け入れる施設などをどうやってマッチングするか。実際のマッチングをしっかりとやらないといけぬ。
- ・商工会議所の主は人財育成ではなく、小規模事業の経営発展を伴走型で寄り添って支援することと事業継続力を強化することの支援が主である。ただ、実践の場や学びの場をつなぐ仕組みとしてインターンシップなどを積極的に取り組むこととして位置付けてもらいたい。
- ・iBリーグが5年前に立ち上がったが、アーケードでシャッターが閉まっているところを活用して大学生に入ってもらったり、講義をしたりいろいろアイデアが出たが、事務局が人手不足になり頓挫状態になっている。ツーリズムバレー大学校においても B-biz LINK と商工会議所が連携して動かしてくれるのか？
- ・商工会議所は法的設置で目的があるので、B-biz LINK が中心となって企画立案をしてコーディネートしていくことが大事。
- ・観光産業の発展が目指すところであれば、どういう観光産業の未来を描くのか？が不明瞭。このゴール設定ができれば、そのために何の支援が必要かという中で大学戦略が出てくると思うが、今は「レイヤー」「フェーズ」「ベクトル」がバラバラなものが1つの図になっている。
- ・完璧な計画を作っているといつまでも計画作りで終わってしまうことが懸念されるので、大きな仕組みを作りながら、考え、まずは動かないといけぬ。
- ・現場における困りごとが、これで解決される方向に行くのかわかりにくい。
- ・情報発信は上手にやっているが、来てもらった人にリピーターになってもらい、ファンになってもらうためにも、心から一緒になって考えていかないといいない。会社のファンになってもらうだけではなく、エリアのファンに、別府のファンになってもらうために、接客に対して一緒にもっと来てくれて嬉しいと伝える力がつくといい。

- ・大学と連携するときに、どのようなつながり方をしたらよいか、そもそも大学としての目的とどうつながるかイメージしづらい。
- ・今の現場の力を育てるには、専門学校に近い形で食のことを徹底してやる人、美容のことをやる人、スポーツや温泉などと結び付けてやれるとよい。
- ・「コンピテンシー」、基本的な普遍的な人としてのビジネスをするための力が落ちていると感じる。基本的な力をつける、教え直す場があって欲しい。
- ・観光産業の方々と学校がコミュニケーションを図り、公開講座の形で従業員が最も参加しやすい時間帯・日程等で調整して、現場が必要とするトレーニングができると思う。いろんなところが積極的に協力してもらえれば、かなり前進する。
- ・「別府らしさ」「別府愛」など別府ならではの観光産業を作っていく議論が多かった。「別府らしさ」を考えたときに今までの枠組みの中だけでは解決できないと思う。
- ・日本全体では中小企業支援は充実しているが、起業家支援はまだまだで、新しいビジネスモデルの創出というものに対して、別府の応援団と呼ばれる人たちが別府市ならではの共通言語を持つ必要がある。
- ・別府としてどんなビジネスモデルが出てきたら理想的か、という議論を継続しながら展開していく必要がある。
- ・観光産業の在り方やどんなビジネスモデルが出てくれば良いかなど、議論の場が必要。
- ・「別府における観光」がどういうことを指しているのかわからない。今までの観光体験の延長線を目指すのか、違う観光の捉え方をするのか。別府に来る目的は観光だけではない。新しい観光としての枠組みを考える必要がある。
- ・この街の賑わった感や新しい賑わい方はどうなったら良いのかと言う部分を言語化し、可視化することが必要。
- ・新しい観光のあり方とか、別府ならではの観光のあり方、観光をアップデートするようなイメージで、別府ならではの観光を定義してイメージを合わせていきたい。
- ・B-biz LINK の役割の1つに、ワンダーコンパスでいろいろな外国のお客様の声を全部聞いている。お客様がどこに行ったか現場でわかっている部分がある。まさに、B-biz LINK を中心に、関係者が囲んでいくことが一番良い。B-biz LINK が音頭をとって仕組み作りをやっていくことがとても大切。B-biz LINK が人材が足りないのは現実だと思うので、補強することも大切。
- ・スケール感が小さい。大きなビジョンとして世界に通じる観光のあり方を考えていくということと盛り込んでいくと大きな夢が描けるのではないかな。
- ・ツーリズムバレー大学校を別府はもちろん、日本そして観光産業界の課題を解決する場が別府。そしてそれを持ち帰って日本、世界から課題を持ち寄って別府で解決して実践するような流れを作っていくことが大学校では可能だと思う。
- ・温泉地の理想のあり方を検討する会議を毎年開催するとか、シンポジウムを開催するなどあっても良い。
- ・別府出身の卒業生は別府愛が強い。別府の応援団として、資金的な支援もあるが、卒業生からの発信や観光産業で働いている経験を伝える場があるとよい。別府の子どもたちに継承していくような仕組みづくりも入れて欲しい。別府で学んだ卒業生が市民に対して発表する場もあったら良い。資金は難しいが、経験・知識・ノウハウを伝える場があると良いと思う。
- ・足元の観光の本当にコアな部分で見ると、経営や人材不足が喫緊の課題であり、いろんな階層や業務別に1社1社では取組めない勉強の場や学びの場を大学校という1つの括りの中で共同で勉強していけると良い。

- ・市民や子どもたちに対して、観光産業の人材不足の中で観光産業の特殊な勤務形態などがクローズアップされて、働き甲斐や良さ、観光産業はこんなに素晴らしいと言う部分が理解されていない。子どもの頃から良さを理解してもらい、違う場所で働いても故郷の観光産業の応援団になっていく、また他所から入ってきた人も応援団に入っていきような概念も必要と思う。
- ・別府ツーリズムバレー構想は、別府全体のアップデートだと思う。全てを底上げしないといけない中で、自分の会社だけが良くなれば良いのではなく、人材育成が上手くいっていない会社の従業員を受け入れて育てる、学ばせることが可能なのか。諸所の問題があるかもしれないが、実行可能な範囲で取り入れて欲しい。

(5) 連絡事項（事務局）

次回開催日程 令和2年1月15日（水） 13：30～

(6) 閉会

以上